

当面の分科会等の運営について(第1回運営委員会資料・抜粋)

- 4つの分科会で議論を進めつつ、総会、「インパクトフォーラム」等での分科会からの発信などを通じて、参加者間の相互理解を促すよう、運営を図っていく。

総会

年1回程度

- ・ 事業方針と運営の基本的事項を決定 ※5月14日には、コンソーシアム総会と併せ、内外の有識者等によるフォーラムを開催
- ・ 役員（会長・副会長）の選任 ※状況に応じ、幅広いメンバーが参加するアドホックのオンラインセッション等も検討

運営委員会

年4回程度

- ・ 総会日程、分科会の設置・調整・進捗確認
- ・ その他運営事項の決定

アドバイザリーパネル

年1回程度

- ・ 国際動向を踏まえた方向性、対外発信・連携のあり方等をアドバイス

分科会

- ・ 会員に分科会メンバーを広く募集
- ・ 効果的な議論推進のため、議論を取りまとめる「座長」、座長を補佐し資料等の集約を中心的に行う「副座長」、集中的に議論を行う「ディスカッションメンバー」等を設定

1. データ・指標

2. 市場調査・形成

3. 地域・実践

4. 官民連携促進

事務局

- ・ 国が支援を行いつつ、各機能を委託

分科会1 データ・指標分科会

概要

- 国内外の先行研究等と連携しながら、事例の共有・分析等を行い、中長期的な課題解決・事業性実現等に有効なインパクト指標の設定のあり方、投資実施時のデータの収集・推計方法、社会課題を示すマクロデータのあり方など、データ・指標の項目と着眼点、収集方法等について、議論を行う。
- 当面は、企業・投資家が資金調達・投資、その後の対話に活用出来る実践的なインパクトデータが不足・不明瞭である点が広く指摘されていることを踏まえ、投資で実際に活用されたデータとケースを集約する**国際的なデータベースとの接続も含め、日本固有のデータ・指標も結合したデータベースの整備・運用等に向け、議論を進める。**

メンバー

※敬称略・五十音順

- 座長：社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ代表理事 今田 克司
東京大学大学院経済学研究科教授 山口 慎太郎
- 副座長：みずほフィナンシャルグループサステナブルビジネス部副部長 末吉 光太郎
- ディスカッションメンバー：アセットオーナー、アセットマネージャー、インパクトファンド、スタートアップ企業、上場企業、EBPM等のデータ専門家、支援機関等を中心に募集

議論のイメージ

※他分科会におけるデータ・指標の議論も取り込みつつ議論

1. インパクト・マネジメントの意義とデータ・指標、分科会の議論のあり方
インパクトデータや指標を整理するにあたり、これを効果的に利活用するインパクト・マネジメントの必要性や意義について確認し、**分科会の方向性を議論**
2. データ・指標の整備状況、今後の整備に向けた論点整理
インパクト投資に係る**国内外のデータ・指標やプラットフォームの状況・内容等を整理し、論点を整理**
3. 日本のインパクト投資に必要なデータ・指標の整理
日本の環境・社会課題を踏まえ、**改善を図っていくべきインパクト投資のデータ・指標の領域を議論**
4. 今後整備すべきデータ・指標のあり方の整理
今後創意工夫や社会実装等が期待される事業も踏まえて、メンバーへの幅広い意見聴取を行いながら、**整備すべきデータ・指標や望ましいインフラのあり方を議論（予算等は、別途検討）**

概要

- 日本のインパクト投資市場の概況を整理し、国際比較や本邦投資家・企業等の特徴も踏まえつつ、裾野拡大を図るべき市場やこのための課題等について議論する。例えば、上場前の又は上場を目指さない企業のインパクト評価、セカンダリー・上場等の出口、多角的な事業を営む上場企業へのインパクト評価、長期投資のあり方等について順次議論を行う。
- 初年度は、特に**投資実務の基本的考え方が定まっておらず議論が重要との指摘の大きい上場市場**に着目し、投資の際の事業の特定、企業と投資家の対話等の課題に関する議論を行い、**実務者も容易に理解できる論点ごとの簡潔な「上場市場におけるインパクト投資の要点」を発信**

メンバー

※敬称略・五十音順

- 座長：フロネシス・パートナーズ 代表取締役 白石 智哉
- 副座長：りそなアセットマネジメント チーフ・ファンド・マネージャー 井浦 広樹
インパクト・キャピタル 代表取締役 黄春梅
- デイスクッションメンバー：アセットオーナー、アセットマネージャー、上場企業や上場を目指す企業、市場インフラ関係者、研究機関等を中心に募集

議論のイメージ

1. 上場市場におけるインパクト投資の意義
インパクト投資に係るガイダンス等を紹介し、**上場市場でのインパクト投資の意義・あり方**について、議論・認識共有
2. 上場市場におけるインパクト投資の全体感
国内外の**上場市場のインパクト投資の実勢や運用手法・プロセス等を議論**し、上場市場のインパクト投資における課題について議論し、全体感を整理
3. 上場市場における実践上の課題
投資・事業の経験者等からのヒアリング等を踏まえて、上場企業がインパクトを追求・評価・開示する際の課題感や、投資家が開示内容を理解し、企業と対話する際の課題感を共有
4. 具体的な論点
融資や非上場市場と異なるエンゲージメントのあり方、上場市場の特性を踏まえた投資のあり方、**対応すべき課題や議論すべき主体等について幅広く議論**

概要

- 地域での社会・環境課題対応を通じた事業成長等に寄せられる期待は高いが、事業性を理解し資本・経営戦略を検討する人材・経験等は十分でなく、**課題感も多様で、実際の取組みは容易でない**。まずは地域の課題特定・解決の実例、事業性理解につながる可能性、成長の実例、人材発掘・育成につながる論点など、**地域の企業・金融機関・自治体等が問題意識を持ち易い多様な情報発信を定期的に行い、機運醸成とネットワーク構築を支援**する。

メンバー

※敬称略・五十音順

- 座長：慶應イノベーションイニシアチブ プリンシパル 宜保 友理子
龍谷大学教授 深尾 昌峰
- 副座長：社会変革推進財団 常務理事 工藤 七子
日本政策投資銀行 経営企画部サステナビリティ経営室長 鈴木 章弘
- ディスカッションメンバー：地域企業、スタートアップ企業、地域金融機関、地域VC、インパクトファンド、支援機関、自治体等を中心に募集

議論のイメージ

(インパクト創出における事業・金融等)

- 地域におけるインパクトの役割
- 社会課題解決と事業成長の具体的なあり方
- 中小企業施策とも連携した「エコシステム」の課題

※地域企業・金融機関等にとって関心が高いテーマを設定し、参加型で課題・論点等を提起

※地域ごとの課題や特色を映す多様な事例を用いて議論を行い、実践的な課題対応につながる議論を検討

(金融から見る事業のインパクト)

- 社会課題を支える多様な金融のあり方
- インパクトを促す多様なデットの手法と考え方
- 地域インパクト企業へのエクイティによる支援

※幅広い事例や場合によっては仮定ケース等を題材に議論し、地域インパクト投資は何か、目線感を議論

※定量データに留まらず、定性的な情報や分析等も組み合わせた投融資の戦略・あり方等を議論

概要

社会課題が多様化する中で、国や自治体等の行政組織が民間事業者と連携しその課題解決にあたる必要性が増しているところ、**特にインパクトスタートアップと連携した社会課題解決の促進について議論**する。具体的には、**両者のマッチングの場の提供とマッチング後の連携を深めるための座組の検討、事例創出等**を目指す。

国や自治体等の行政組織とインパクトスタートアップとの官民連携に関しては、行政組織側、スタートアップ側にそれぞれ課題が存在。こうした**課題を構造化したうえで提示をし、課題解決に向けた議論を深めていく**。

解決策の検討が深まった課題から、**解決手法の具体化を行い、速やかに実証し、横展開に繋げていく**。

メンバー

行政、インパクトスタートアップ等を中心にご参加予定

議論のイメージ

行政側、スタートアップ側の双方に**ヒアリングやアンケート調査を行って整理された課題について議論**。

具体的には、**行政側、スタートアップ側、加えて双方を繋ぐマッチング等の課題の3点について整理された課題の解決方法に向けて議論を行う**。

(想定される課題例)

1. 行政側の課題 (スタートアップから新たに調達することにハードルがある等)
2. スタートアップ側の課題 (金銭で測れないインパクトを自治体等に示すのが困難である等)
3. 双方のマッチングの課題 (自治体とスタートアップが出会う場や機会が不足している等)